

## 子どもとの関係を壊さないために

### ～正しい叱り方を知ろう～

今年度、コロナ対応で学校事情も様々です。新年度、学校で子どもたちとの出会いの時間も限られたものになるかもしれません。その中で、「子どもとの出会い」はとても大切な時間で、最初の印象を間違えると取り戻すことのできないことになるかもしれません。

子どもを叱らなければいけない場面は、すぐ起きるかもしれません。その中で、ブレないように、ためらわなわないようにすることが大切です。

### 「叱る」と「怒る」とのちがい

- 叱る**
- ①相手のよくない言動をとがめて、強い態度で責める
  - ②怒る
- 怒る**
- ①不満、不快なことがあって、がまんできない気持ちを表す。腹を立てる。いかる。
  - ②よくない言動を強くとがめる。叱る。

相手に**要求・リクエスト**を伝えるという点では同じであり、本来の目的は「怒っている」という感情を伝えることが、メインではありません。いずれにしても、相手に対して、正しく**要求・リクエスト**が伝わって初めて意味をなします。

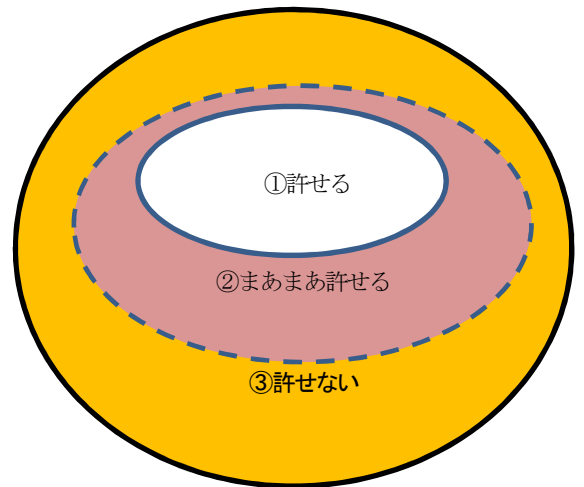
### 正しくない叱り方とは

- ①怒りを爆発させるだけ
- ②怒る基準が不明確（機嫌）
- ③パフォーマンス的、威圧するように計算高さがある。
- ④人格を否定する  
→叱っていいのは「行動、結果」
- ⑤人前で叱る

間違えた「叱り方」をするとその場ではなんとかなったとしても、**子どもとの関係を壊しかねません**。しかし、叱らずにそのままにしておくと、知らず知らずのうちに教師の発言権は低下し、学級の統制がとれなくなり、叱らない教師はリーダーとしての役割を全うできません。**リーダーである以上、叱る覚悟を決めなければなりません**。正しく叱り、メッセージを伝えるためにはブレない叱り方が必要になってきます。

### ぶれない叱り方をするために

子どもから見た時、怒るタイミングがわからない教師だと、「この先生は気分でする先生だ」と思われてしまいます。また、教師側からしてみても、「あの時、あの子に叱ったのに、今回は叱らなかった・・・」となれば、気持ちの中でモヤモヤしたものが残ってしまいます。なので、自分の中の基準をしっかりと確認することが大切です。



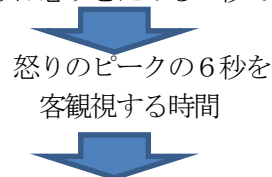
「怒り」は自分の価値観を裏切られたときに生じます。自分が「～すべき」と思っている「べきルール」という価値観を理解し、叱る基準を毎回変えないようにすることが大切です。つまり、②と③の基準を超えた時は叱らなければならない時です。また、自分はいらいらいしすぎてしまうという人は①と②の基準を見直し、許せる範囲を広げることが大切です。

### 感情のコントロールをするために

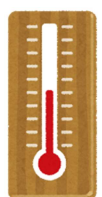
叱らなければいけない場面になった時、「本当に怒る必要があったのか？」と後悔しないためにも、衝動的な怒りにまかせて叱らないことが重要です。そのため、怒りの感情のピークとされる6秒を抑えることで無駄に怒らずにすむこともあります。

<6秒ですること>

6秒は怒りをためる6秒ではない。



怒りの度合いの**点数**をつけましょう。



今の自分の怒りは「〇点」ぐらいだから、まだだいじょうぶ!